会報

2005. 9. 10

第40号

戦没船を記録する会

〒105-0014 東京都港区芝2-8-13 睦マンション２０６
Tel:03-3452-5085 FAX:03-3452-2711 郵便振替001606-719515

目　　次

第12回定期総会開催 ・・・・・・・・・・1－4
11年度報告、12年度活動方針・予算
若者の朗読劇で大きな盛り上り・・・・・・・5
（戦争展inよこはま）
朝鮮・台湾出身戦没船員の実態を展示・・・・6
（埼玉の戦争展）
工夫・手作り・根気で平和を追求・・・・・・・7
（焼津の戦争展）
データベース化進展・事務局便り・・・・・・8

第１２回定期総会開催

新目標を加えて もう一踏ん張り

第12回定期総会は、4月15日14時から17時まで、東京浜松町海員会館第１会議室で、会員17名が出席して開かれた。

川島会長の挨拶の後、川島議長のもと議事に入る。

第11年度活動報告・第11年度会計報告

篠原事務局長から両報告が行われた。

（第11年度活動報告書は会報第39号掲載通りであり、報告書で大方理解できると思われるので省略）

第11年度会計報告書(別掲参照）は、２月理事会の時のものと若干と異なっているので説明する。

＜一般会計＞

会費収入については、正会員76人、賛助会員28人から会費納入があった。寄付金は会費納入の際の寄付と、その他有志など23口であった。事業収入では会員で理事の正岡勝直氏の著書「日本海軍特設艦船正史」の委託頒布の収入と、本会の「十年史」の頒布収入である。雑収入は、十年史の印刷費支払いのための借入金20万円と預金利子である。

支出では通信費は主に切手代、会議費は総会、理事会などの会場費。印刷費は主にコピー代、事業費は「正史」の仕入、「十年史」の印刷費、発送費を含んでいる。雑費には借入金返済の20万円が含まれている。

＜特別資金会計＞

会計期間は、寄付金の入金が04.11.25であったので04.11.1～としたが、運用開始は05.1.1であった。

○寄付金＝2004年11月25日に通信士組合から600万円の入金があった。

○資料収集費＝正岡理事からは、以前から種々の資料提供があり、特に昨年来相当量の資料提供があった。この中には多くのコピー資料が含まれており、コピー代補填も含めた今までの謝礼として10万円。

○データ入力費＝「戦没船員名簿」のパソコン入力を５年程前に２万名分程やってもらっており、それが今回生かせることが分かったので、当時やった方に５万円の謝礼をした。「徴用船名簿」の自主パソコン入力分３万円(業者発注の半額)、「昭和17年日本船名録」約1.8万隻の業者によるパソコン入力274,736円。それらパソコン入力分のチェック・整備２万円。

○旅費・交通費＝気仙沼での展示会への出張旅費、当地のいろいろな方に協力していただいたこともあり、挨拶方々会長にも出向いてもらい、会場準備・説明員含め計４名の出張旅費17万円。パネル作成・資料整備のため事務所に出てきた人の交通費４万余円。

○11年度の支出合計は686,826円。

実績がない中でとりあえずこのような報告書としたが、科目の立て方、支出基準等も今後の実態を踏まえながら整備していきたい。

（桑島監事）

４月５日会計監査を行ったが、基金・一般会計共に正確に運用・管理されていると認められる。付言としては、「支出雑費」にいろんな支出が含められすぎる、見直し検討が必要視される。

特別資金会計については、実績も少ない段階であるので今回は監査せず、12年度の上半期の終わった段階(10月）で監査することとしたい。

若干の討議の後、会計監査報告を含め、「活動報告」「会計報告」は承認された。

第１２年度活動方針

篠原事務局長の方針説明（方針（案）会報39号参照）

１、戦後60年、「資料館」開設５周年記念事業

この事業の趣旨は、今年は戦後60年に当たり、また「戦没した船と海員の資料館」開設５周年に当たる。資料館の開設は本会と全日本海員組合が共同して取り組んだ事業で、かつての大戦で失われた６万有余の海員の慰霊・鎮魂と、不戦の誓いの証として、その船員たちが乗り組んでいた戦没船の雄姿を展示し、世界と海上の恒久平和を祈念し、広く社会にアッピールしていくためのものであった。

しかし今日、自衛隊のイラク派遣が継続され、新防衛計画では自衛隊の海外派兵の本来任務化をうたい、在日米軍再編で日本を世界規模の先制攻撃基地化すること、中国や北朝鮮脅威論を楯に軍備増強を図り、これらを背景として戦争をする国にするための憲法改悪など、きわめて危険な動きが顕著になっている。

そのため海員組合も、憲法９条改悪反対、有事法制を発動させないなどの闘いを運動方針に掲げている。

本会はこれらの運動に全面的に賛成であり、これを更に前進・発展させるため共同して、戦後60年、資料館開設５周年の記念事業を行い、われわれの志を社会に訴えて行きたい。内容については協議の上実行委員会などを組織して取り組むこととして、共同事業の開催を海員組合に申し入れる。

２、資料作成・整理＝新たに発掘･提供された物のパネル化･アルフォト化、既存の展示パネル･アルフォトの劣化・損傷したものを補修･新替え、その上で今後活用しやすいように整理する。

３、データベース化＝①戦没船員名簿②日本船名録③徴用船名簿等のデータベース化は、相当の手数と費用を要するが、業者発注、会員･会員外協力者、研究者の協力を得ながら実現したい。

４、ホームページ開設＝資料収集と本会の宣伝をより有効性化するため、本会のホームページ（ＨＰ）を開設する。掲載内容･有効な運用形態と態勢･設備等の課題は残っているが、何とか実現したい。

５、パネル展開催＝引き続き各地の戦争展には参加する。

独自展の具体的プランは未定だが、１が実現すれば、神戸での開催も考えられる。

＜討議＞

○「資料館」の記念事業は、反戦･平和の観点とわれわれの努力の有効活用の観点からも是非実現してほしい。

○総会決定として海員組合に文書申し入れを！

○「資料館」に矮小化するのではなく、海員組合として取り組む事柄だ。

〔文書申し入れをし、その反応を見ながら対応することとした。〕

第11年度収支報告書

(2004年4月1日～2005年3月31日)

基本会計　（単位円）

科目	金額
前年度繰越	150,000
入会金	
次年度繰越	150,000

一般会計

前年度繰越	412,234
会費	456,000
賛助会費	114,000
寄付金	91,000
事業収入	944,350
雑収入	200,013
収入合計	**2,217,597**
通信費	114,150
会議費	33,650
印刷費	127,300
事業費	880,993
交通費	5,370
事務所費	240,000
雑費	296,937
支出合計	**1,698,400**
次年度繰越	519,197
総計	**2,217,597**

繰越金内訳

基本会計

銀行預金	150,000

一般会計

現金	74,359
振替貯金	318,525
銀行預金	126,313
合計	519,197

特別会計収支計算書

(2004年11月1日～2005年3月31日)

収入　（単位円）

科目	金額	備考
寄付金	6,000,000	2004年11月船舶通信士労働組合より受け入れ
預金利息	16	
合計	6,000,016	

支出

資料収集費	100,000	資料提供謝礼
設備･整備費		
データ入力費	374,736	業者入力 自主入力 チェック･整備
旅費･交通費	212,090	展示会出張 交通費
通信費		
文具・雑費		
支出合計	686,826	
次年度繰越金	5,313,190	
総計	6,000,016	

残高明細　（単位円）

科目	金額	備考
銀行預金	5,300,016	中央労金 田町支店
現金	13,174	
合計	5,313,190	

第１２年度特別会計予算

栗原幹事）「特別資金会計」は05年2月17日開催の理事会において設定され、本年1月1日遡及実施となったばかりで、実績はごく部分的となっており、実績を踏まえた予算を立てることは困難な状況にある。

従って、本資金の事業目的を中心に、具体的活動を想定し、それらに必要視される金額を仮設定して予算化したが、不確定要素が大きいので、確定されるもの以外は文書提案を避けた。なお、活動内容への理解促進も含めて多少長くなるがご了承願う。

資料入手費

△　資料提供者への謝礼＝本会が独自に新たな資料を発掘することは、相当の困難が予想される中、調査・研究に多年努力されている方々から資料提供等の協力がなされている。これ等に対する本来的な対価は算定困難であり、本会の支払能力を超えるものなので、対価には到底及ばないが、「謝礼」という形で本会の支払能力に応じた支払いをする。

△　証言謝礼＝何人の証言を得られるかは目算がないが、可能なアプローチをし、実現した場合は1人(1件)につき5,000～20,000円の謝礼をする。

△　書籍購入等＝極力抑制する。

資料収集費・旅費交通費

△ 遠距離出張＝1回75,000円×2回で150,000円。

△ 日帰り出張＝1回10,000円×5回で50,000円。

インターネット費

△　ＨＰ作成＝トップページは見映えと利便性を考慮し、業者発注とし150,000円。

△　ＨＰ整備＝ＨＰに載せる内容は、未確定だが本会の収集した諸資料（戦没船明細録、戦没実態・証言他）、今後整備される諸資料等、相当量が見込まれる。既にパソコン入力されているものもあるが、未入力分も相当あるので、これらの整備・入力と開設後の更新作業等を含め50,000円。

△　パソコン本体整備・ソフト購入＝現有パソコンの機能向上が必要、ハード・ソフト両面の新規購入と改善のため100,000円。

資料整備費・旅費交通費

△　自宅外活動＝資料整備のために交通費を要する自宅以外(事務所を含む)での活動として100日分/250,000円（会員以外の協力分含む）。

△ 在宅活動＝200日分/100,000円（会員以外の協力分含む）。

印刷費＝コピーリース料分担80,000円、外部コピー、コピー・印刷用紙・インク・トナー等。

文具費＝資料用ファイル（50冊）、その他文具全般

日本船名録＝外注@14円×1.8万隻=250,000円、S18年版自主入力＋全般チェック・整備（入力ミス訂正、疑問点調査・訂正等）100,000円

戦没船員名簿＝外注@23円×３万余人=700,000円、自主入力１万人分＋全般チェック・整備150,000円

12(05)年度特別資金会計予算

科　目	金額(円)	備　考
資料収集費	750,000	
資料入手費	250,000	資料提供者謝礼、証言謝礼、書籍等購入
旅費交通費	200,000	遠距離出張、日帰り出張
ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ費	300,000	ホームページ作成(外注)、ホームページ整備 パソコン本体整備、ソフト整備
資料整備費	500,000	
旅費交通費	350,000	自宅外活動、在宅活動
印刷費	120,000	コピー料、コピー紙、パソコンインク等
文具費	30,000	ファイル、その他文具全般
ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ化費	1,300,000	
日本船名録	350,000	S22年版（業者発注）250,000、 S18年版（自主入力)、チェック・整備
戦没船員名簿	850,000	業者発注700,000、自主入力、チェック・整備
徴用船名簿	30,000	チェック・整備
戦没船名簿	70,000	自主入力、チェック・整備
展示会費	550,000	
パネル費	300,000	パネル板250,000、パネル制作
旅費交通費	200,000	独自展(1回)、共同展(４箇所)
諸費	50,000	参加費、会場費、運搬費等
旅費交通費	50,000	区分けし難いもの、上記以外の旅費交通費
通信費	100,000	電話(Fax含む)・インターネット通信・郵送費等
雑費	50,000	上記以外のもの
合　計	3,300,000	

徴用船名簿＝海軍関係(約５千隻）は前年度に作成済みだが、そのチェック･整備と陸軍関係が未済。
戦没船名簿＝汽船関係（約３千隻）は資料が大方揃っているのでパソコン入力も作業的に進められるが、漁船･機帆船関係(約５千隻）は、調査と平行しての作業となるので、予算超過もありうる。
パネル費＝パネル板購入　@1,600円×150枚、パネル新作･整備60,000円
展示会･旅費交通費＝独自展示会１回開催150,000円(2～3人出張)、共催･参加展示会４ヶ所50,000円
諸費＝会場費20,000円、展示パネル等の運搬費10,000円、参加費20,000円
旅費交通費＝他にも同名科目があるが、今後の実績を見て一本化等見直しを図る。
通信費＝電話・Fax共に海上労働ネットワークと共用故、また、ＨＰ開設に伴いインターネット活用も増えることが予想されるので、使用実態勘案の上相応負担をする。余裕を持った予算額とした。
雑費＝予備費的な性格も含めて計上した。
合計3,300,000円である。

科目について＝実績過少の中で不統一･未確定部分があるが、本年度上半期終了時点の実績に基づき、見直しの上確定する予定故、ご了承願う。

＜討議＞
○せっかく作ったデータベース、本会の活動のみでなく広く活用できるようにしては？（その方向で考えたいが、プライバシィ、著作権、ＨＰの容量の問題も懸念されるので、慎重に対処したい）
○第12年度末の残金が200万円程度となりそうだが、後年度の活動は大丈夫か？（データベース化費等本年度に集中しているものが多いので、後年度は年100万円で何とかやってゆけるものと見られる）。
〔２～５については、通信士組合からの寄付金により、資金的には活動高める可能性が出てきた、研究者や関係者の協力を得つつ一踏ん張りすることとした〕
第12年度活動方針･第12年度特別資金会計予算は原案通り決定された。

役員人事
川村赳副会長が一身上の都合で任期半ばにして辞任したが、規約では「副会長は３人以内」となっているので、本年度はその補充は行わず、中島副会長１人体制で行くこととした。

第12回総会に寄せられた意見
○名前のみの会員で恐縮しております。皆様のご活躍にオンブニダッコで、せめて重荷にならなければと心配しております。 ますますのご盛会をお祈りします。会費とカンパをお送りします。
(中山惇雄)
○海のほかに墓場を持たない船と船員の痛ましい実状を少しでも国民に知ってもらいたいのです。草の根の運動が大切ですね。カンパ少しですみません。 会の発展をお祈りいたします。(高橋潤次)
○今日まで出席の予定でいましたが、残念ながら足の方の具合があまりよくなく出席できません。明日８日に通院の予定なので、多少ともよくなれば･･･と思っています。 （小林良三）
○会費遅れて申し訳ありません。市長リコールが始ってててんやわんやしています。少し元気がないのでどうなるか。不順な天候が続いています、ご自愛ください。 （安藤敏顕）
○『十年史』特に「第2次大戦後の被害」年表に、貴会活動の意義を教えられています。年々逆風が強まっていますが、「継続は力なり」と申します。頑張りましょう。 （小田純市）

戦後60年記念事業について
第１２年度の活動のひとつとして、「戦後60年、『戦没した船と海員の資料館』開設５周年記念事業を、海員組合と共同して開催する」ことを掲げた。
この事業の趣旨は、第１２年度活動方針の提案説明（本紙２ページ）のとおりであるが、この事業計画について海員組合に申し入れ、数回にわたり協議したが、組合は、経費の問題もあり戦後60年の記念事業を本会などと共同して行う積りはない。資料館の問題はすべて資料館に任せてあり、５周年記念事業を海員組合として実施する予定はない。資料館と直接交渉してほしいという回答であった。
本会としては資料館内の記念事業だけに矮小化して行う事業でないとして、この方針は不調に終わった。

平和のための戦争展inよこはま

若者の朗読劇で 大きな盛上り

「平和のための戦争展 in よこはま」は10年目を迎えたが、今年は戦後60年の節目に当たり、戦争も核兵器もない平和な21世紀を願って、5月27～29日の３日間「かながわ県民センター」で開催された。

今年は戦後60年の節目ということもあって、マスコミの積極的なＰＲもあり、初日から来場者が多く、過去10年の中で最高となった。特に最終日は中高校生による朗読劇「横浜北の郷物語」が行われ、若い人達の観劇が多く、満員札止めの盛り上がりとなった。

１ 日 目

午前中は会場の設営。パネル展示は、憲法９条全文を入口に表示、横浜大空襲関係の写真、アメリカの戦争と日本憲法の歴史、学童疎開、日吉台地下壕、栄区焼料廠、船と戦争、治安維持同盟・横浜事件、教科書問題、原爆展、占領下のイラク、残留孤児、アジアへの侵略15年戦争、中国・朝鮮侵略、ベトナム・マレーシア、横浜米軍基地、池子の森（米軍住宅）象列車ネットワーク、米軍機墜落事件、平和のための活動、世界の平和活動、９条を守る会の署名、平和図書・パンフレットの販売ー等々、スペース一杯に参加グループ別に展示した。

戦没船を記録する会は、東海汽船の橘丸（病院船）のパネルを新たに展示に加えた。

橘丸は病院船であったが、軍の命令で武器弾薬・兵員輸送していたため、米海軍の臨検を受けて拿捕され、安田船長は戦後戦犯として裁かれ服役後釈放された、という謂れのある船であった。

13時会場と同時に入場者が詰め掛け、初日から盛会となった。

夜は「歌に込めた平和の願い・美空ひばり＝１本の鉛筆について」と題して新井恵美子さん（作家）の講演があった。

新井さんは、映画監督の松山善三さんが平和の願いを込めて詩を書いた歌「一本の鉛筆」を美空ひばりさんが歌うことになった経緯を紹介、「磯子の空襲を思い出した」などと記された美空ひばりさんの自伝、生家が磯子区で5月15日の空襲で丸焼けになった。彼女が世間から驕っているように言われていたが、1973年の広島平和音楽祭で「一本の鉛筆」を歌ってから変わったと話した。さらに、『一本の鉛筆があれば私はあなたへの愛を書く、一本の鉛筆があれば戦争はいやだと書く』などがある歌を参加者と共に合唱し、「横浜の平和の歌としてこれからも歌い続けてほしい」と訴えた。

続いて劇作家の篠原久美子さんが「演劇は非戦の力」と題して講演したほか、空襲研究家の中山伊佐男さんが、空襲時に米軍が空から撮影した写真を基に、横浜空襲の実態を解説した。

２ 日 目

午前中ビデオで①横浜空襲の記録②米軍を迎えた横浜③旧海軍日吉台地下壕・落日の連合艦隊④戦争に反対した人々ー等を放映、午後は①横浜詩人会議による詩の朗読②横浜事件についての弁護士吉永満夫さんの講演③ビデオミニトークー等が、生協担当者によって行われた。

３ 日 目

午前中はビデオトークを中心に、戦争体験者のお話や広島・長崎被爆者の体験、アニメの「パパ・ママ・バイバイ」を上映、午後は「横浜大空襲から60年、再び惨劇を繰り返さないために」と題して山内美恵子さん（脚本家）による講演があり、終わってからは中高生100名を中心とした朗読劇「横浜北の郷物語」を上演した。

主旨は「自分達の住んでいるところで起きた米軍墜落事件（パイロットは脱出して無事）を平和の原点として語り継ぎ、愛と平和の願いを全世界の人々に広げていこう」というもの。

地元といっても行政区から見れば港北・都築・青葉・緑の４区にまたがる地域で一つの作品を作り出す困難さは想像に難くないことでしたが、若者たちは見事にまとまった舞台を生み出してくれた。

この物語は1977年9月27日13時、米軍の偵察機ファントムが荏田に墜落し、その一帯は火の海となり、この事故で被害にあった土志田和枝さん（当時26才）と長男裕一郎ちゃん（３才）・次男康弘ちゃん（１才）が全身に火傷を負い病院に運ばれたが、翌日「パパ・ママ・バイバイ」の言葉を残して息を引き取った。

和枝さんも４年４ヶ月後に子供たちの後を追うように亡くなった。

この事件を若者の目線で朗読劇にしたもので、迫力のある舞台は超満員の観劇者に感動を呼び起こし、大成功であった。

３日間のカンパは79,628円も集まり諸経費を支払い後も黒字となった。

会場内でのアンケートが127通も集まり、昨年の88通を大きく上回った。その中に戦没船に関するものが１通「感動したのは商船の戦争犠牲の多いことでした。もっと多くの被害写真を見たかったのですが、他の展示もあるので仕方ないかもしれませんが・・・」とあった。　　（2005.8.29　　吉田　敏長）

2005 平和のための埼玉の戦争展

朝鮮・台湾出身
戦没船員の実態を展示

「2005 平和のための埼玉の戦争展」が、7月28日～8月1日までの5日間に亘りさいたま市で開かれ、12,500 人が足を運んだ。

本年は、被爆・敗戦６０年という節目の年、世界的に改めて戦争・平和と核兵器の問題がクローズアップされている中、「武力によらない平和をめざして－見つけよう戦争以外の答え」をメインスローガンに、いろいろな視点からの展示がなされた。

判明した事実をパネル化

本会は、「持ち込みグループ」の形で、これに参加しパネル展示を行ったが、昨年指摘を受けた「加害者の視点」も視野に「外国人の犠牲が多かった沈没船の実態展示を」との意見もあり、詳しい資料の収集と分析を進めたが、展示パネルに結びつけることが、時間的なこともあって困難視された。

他方、平行して進められていた「データベース化された戦没船員名簿」のチェック・整備の中で、朝鮮・台湾出身戦没船員について①名簿自体の記載事項不記載(空欄)が多い②昭和19・20年の戦没者が大多数③全戦闘海域にわたっている④属員(部員)船員が95%以上⑤船別では31人との船もあるが、1～2人の船が大多数で1,100隻以上に及んでいる⑥出身地域では南部が多いが全土にわたっている⑦朝鮮出身船員では創氏改名の人が90%以上－等が判明した。

近年、近隣諸国との関係改善が必要視され、日本政府も韓国に対して、植民地時代の資料提供を開始している。「加害者の立場」と共に「事実解明」の視点からも、われわれのできることをやることが必要と思われたので、上記判明点に関連したことをパネル化することとした。

今回新たに作成展示したパネル

1、戦没船員名簿記載事項別不記載件数表
2、朝鮮・台湾出身者年別戦没船員数(グラフ表示)
3、朝鮮・台湾出身の地域別戦没船員数(地図表示)
4、朝鮮・台湾出身戦没船員の多い船の写真と簡単な説明（10隻＝10パネル）
5、朝鮮・台湾出身戦没船員の乗っていた船のアルフォト（90隻分）

上記以外に、太平洋戦争中の日本商戦および艦艇沈没位置図、海域別戦没船調査表、本籍地・所属別戦没船員調査表、トラック島の戦没船等のパネルを展示した。

このほかにパネルではないが、表示・説明補助用とデモも兼ね、パソコンを持ち込み「戦没船写真」「戦没船員名簿」等をデスプレイ上で見てもらった。

来場者の反応

◎　今年も立ち止まってパネルを見てくれる人が多かった。積極的な質問は少なかったが、女子中学生と見られる３人組が「朝鮮の人が、何で日本の船でこんなに多く死んだの！」と呟くようにいう。

朝鮮が日本に植民地支配され、多くの朝鮮の人が危険・きつい・汚い労働をする労働者として強制連行され（日本本土へ約72万人)、戦争が始ると日本兵とした徴兵された(軍人・軍属約45万人、内戦死約５万人）ことを多少歴史的年表も含めて話し、その中に日本船に船員として乗せられた人が相当数おり、2,614人が戦没したこと話した。「そんなこと勝手にできたの?」との疑問顔を残しながらも、再質問はなかった。

◎　遺族・関係者からのお尋ね

1、高齢婦人＝船に乗っていたという兄の死亡通知が、石と頭髪の入って木箱と共にきたのは、私が小学２年生の頃でしたのでよく覚えていないが、近年、改めて兄の死んだ時の状況はどんなだったのかと気になってきました。分かることがあったら教えて欲しい。

早速、「データベース化した戦没船員名簿」を検索、もんとりゐる丸(日産汽船）に乗船中、Ｓ18.1.6に戦没した「Ｈさん」あることが分かった。直ちにパソコンで同船の写真を検索、ご婦人に見ていただき、より詳しい当時の状況書のコピーをお渡しした。

ご婦人は「こんな船で、冷たい北の海で死んでいったのですね。さぞ寒かったろうに、目に見えるような気がします。親戚にお知らせし、盆には墓参りし、改めて語りかけてきます」と複雑な表情で語られた。

2、72才男性＝叔父が太洋丸（Ｓ17.5.7沈没）に乗船中戦没した。ある程度のことは見聞きして分かっているが、より詳しいことが知りたい。

早速、太洋丸の写真と持参した資料を見ていただいた。写真は喜ばれたが、資料の方は既知のものばかりとのこと。

後日、他の資料を探したりしている内に、乗船船名が太洋丸ではなく「富山丸(西太洋漁業)」であることが判明（戦没船員名簿の職名・本籍地・遺族から叔父であることを同男性も確認)、改めて富山丸関係の資料をお送りし、大いに感謝された。

（他に3人の方よりお尋ねがあったが、紙数の関係で別の機会に譲ることとする）

なお、諸資料のデータベース化は、労力と経費を要することであるが、そのパソコン表示は若い人たちの興味を誘うとともに、実用的にも大いに有効であった。

(栗原)

焼津における「2005 第６回平和のための戦争展」

工夫・手作り・根気で 平和を追求

１．はじめに

焼津の「平和のための戦争展」は、2000 年から毎夏催され６回を数える。今年は８月５～７日の３日間、焼津公民館で資料展示を行ない、８月６日焼津市文化センターで映画を上映した。

戦後 60 年を迎えた今、小泉首相の「靖国神社参拝」の固執、新しい歴史教科書をつくる会の「侵略戦争」の否定、国政では各党が競い合うように「戦争する国づくり」へと憲法改悪の動きなど、大変危険な方向へ進み憂慮されている。さらに、国内マスメディアの批判力のなさをみると、まるで戦前の大政翼賛会化のようである。近隣諸国をはじめアジア各国から懸念と強い批判にさらされ、わが国の外交はゆきづまってきている。

こうした中、戦争の恐ろしさ・残酷さ・悲惨さ等過去の戦争を広く市民に知らせ、「憲法９条を守る」ことこそ平和な未来につながるとの趣旨で催しを行なった。

２．展示内容

大きく分けて次の３本柱で構成されている。

◆繰り返してはならない焼津漁船徴用－戦争のくらし

◆３・１ビキニ水爆被災と第５福竜丸事件

◆戦争と子どもたちのくらし・市民の平和への願い

子どもや若い人たちが理解できるよう、全てのコーナーで写真・漫画等をできるだけ多く用い、視覚に訴える展示とした。（新作の「太平洋戦争での朝鮮・台湾出身船員の戦没状況」に関するパネル 12 枚も展示した）。　おかげで展示入場者数は、３日間で延べ６３０名に達しました。

３．平和のための映画会

子どもアニメ映画「ぞうのいない動物園」を午前１回上映し、親子 350 名が鑑賞、「二十四の瞳」（木下恵介監督・高峰秀子主演）を午後２回上映し、200 名が観賞した。

４．アンケートにみる市民の声

入場者にはアンケートを記載してもらったが、参考となる感想が多くあるので一部紹介する。

○前に学校で聞いたことよりも、もっとつらいことかがわかった。来なかったらそういうことがわからなかったからよかった。（小学生女子）

○戦争がない平和な時代にうまれた私は、そのころの苦しみやつらさはぜんぜんわからないけれど、この展示会ですごく心にしみてきました。もっとよくしっていきたいと思うきっかけになりました。
（中学生女子）

○とても放射のうがこわいことがわかりました。
（中学生男子）

○戦争で起こったことは風化させてはいけないと思いました。こういうことはこれからもずっと伝えていかなければいけないと思います。
（高校生女子）

○徴用船の話を祖母からよく聞きますが、具体的にはわかりませんでした。沢山の船が被害にあっていた事を知りました。残念でなりません...。
（30 代女性）

○涙なしには見られませんでした。戦争のない平和な生活がおくれるよう私にできることをやっていきます。（40 代女性）

○昨日、今日と２日間来させて頂きました。３人の子ども達がそれぞれの年令で感じ取ってくれればと思います。知らないで済ませてはいけない問題だと受け止めてくれたらと思うのですが、又家族で話し合いをしたいと思います。（40 代女性）

○戦後 60 年の節目の年で戦争を私たちがどう受けとめ、平和な日本をつくっていくか、特に未来を担う子ども達に平和教育をしていかなくてはなりません。この企画がそのひとつの良い機会だと思います。（50 代男性）

○次の世代にかたりついでいく事が大事なことだと思います。戦争はぜったいにいやです！（60 代女性）

５．今後の課題

私たちの会は市民が実行委員会をつくり、色々工夫しながらこれまで続けてきた。徴用漁船や第５福竜丸といった過去の事情もあり、開催には焼津市・焼津市教育委員会から多少援助してもらっているが、全てを賄いきれないので、市民有志に寄付金・カンパをお願いしている。

来館者を増やすための案内を、市民には市の広報紙に掲載し、子どもたち（幼稚園、小・中学校、高校）へはチラシ・ポスターを直接各学校へ配布し、観覧・観賞を呼びかけている。しかし、来てくれる人数がもっと多かったらとの声がいつも出る。会場に足を運んでくれた市民へは色々な感動を与え、平和の尊さを伝えることができていると確信しているが、まだまだ不十分だと思っている。

例年行なってきた体験話が、本年は事情があってできなかったのが残念であった。

データベース化進展

大きな対象消化に苦闘

戦没漁船･機帆船の記録活動については、 本年２月の理事会決定に基づき、手近な資料収集・データベース化等への取り組みを開始、４月の定期総会の決定に基づき、活動の本格化を図り、鋭意努力を続けている。

１、資料収集

従来から、一部研究者からの資料提供が続いていたが、本会が本格的にこの問題に取り組むこととしたのを契機に、より一層の協力が進んでいる。しかし、膨大な資料の中から本会の活動にマッチしたものを抽出すること自体も容易ではなく、提供いただいた資料の整理・分析・活用に結構時間と労力を費やしながらも、成果は不十分な段階である。

2004 年以後に提供を受けた主な資料は、

(1)昭和 17 年日本船名録(約 570 頁＝ 18,000 隻分)
(2)昭和 18 年日本船名録(約 600 頁＝ 25,000 隻分)
(3)昭和 22 年日本船名録(約 600 頁＝ 25,000 隻分)
(4)漁船の太平洋戦争(約 600 頁)
(5)日本海軍特設艦船正史(正岡勝直著)
(6)海軍徴用船明細録
(7)台湾砂糖機帆船環送記録(まとめ的メモ含む)
(8)南西諸島機帆船輸送記録
(9)地方漁業組合史抜粋(４漁業組合)
(10)各戦隊戦時日誌(大量)
(11)特設艦船損害･解用･変更･残存簿
(12)陸軍徴用船舶行動調書(６ファイル)
(13)静岡県漁船関係諸資料１式(高橋鑛逸監修)
(14)戦没漁船・機帆船写真（20 枚）
(15)知られざる漁船の戦い(新関昌利著)
(16)戦没船写真集(書籍)
(17)戦没船写真集(CD -ROM)
(18)一般徴用船配属状況
(19)船舶建造助成施設による建造状況
(20)徴用船名簿補正綴(第１版～第３版)
(21)海軍徴用船舶戦後整理綴
(22)北東方面に進出の漁船団(昭和 18 年３～９月)
(23)徴用機帆船配属綴
(24)特設監視艇関係諸資料１式

＊その他細かいものについては省略した。

２、資料整備・データベース化

①昭和 17 年船名録＝提供いただいた資料を基に、業者発注、自主チェック・整備により５月末までにほぼ完成した。

②昭和 18 年船名録＝自主作成方向で作業を進めているが、昭和 17 年船名録との相違点の紙上チェックを終え、パソコン上での加除訂正を 1/3 位終えた段階。予想以上に相違点(加除訂正点）が多く、進行に時間を要している。

③昭和 22 年船名録＝業者発注によるパソコン入力は５月末に終えたが、このチェック・整備には着手していない段階。

④戦没船員名簿＝従来から本会に保存されていた名簿（写）の半分を業者発注、残りを自主作業で７月中旬にはパソコン入力を終え、チェック・整備等を進めている段階。

⑤徴用船名簿＝提供いただいた書式名簿の一応のパソコン入力を３月末に終えたが、資料の再チェック・新資料の発掘等による加除訂正が継続的に行われている。

⑥戦没船名簿＝われわれの目的は「戦没船（船員）の記録」にあるわけで、データベース化の分野でもこの名簿作成が主目的になるが、その構成項目の多くが①～⑤のベース化によりより正確に、効率よく確定できるので、現在は①～⑤を先行して作業を進めているところである。

一方、研究者が「戦没船名簿」についても調査・分析を続けているが、戦没時期・戦没場所については、全体的に纏められた資料はなく、把握されている諸資料を検索・整理すると共に、新たな資料の発掘により補充しつつ作成してゆかねばならないので、完成には２～３年を要すると思われるが、できるだけ早い時期に中間的なまとめをし、次の発展に繋げてゆきたい。

以上が状況の概略だが、原資料となっている「船名録」や 「戦没船員名簿」自体が、一つ一つチェックしてみると、ミスプリント、明確な間違い、疑問視される部分も散見され、それらの調査・確認等に予想以上の時間と労力を費やしている。

実務的なことは、パソコンを屈指しての細かい作業が多いことから、比較的若い船員ＯＢの協力も得つつ進めているのが実情である。

３、ホームページ開設

ホームページ掲載予定物（「戦没船名簿」「会報」等）のパソコン入力を進めつつあるが、余り進んでいない段階である。とはいえ、全体網羅には時間を要するので、一定段階で開設することとし、早急にトップページの制作等、業者発注部分の折衝に入る予定である。

事務局便り

第 12 回定期総会後はや５ヶ月、各地の「戦争展」の準備･実行もあり、会報の発行が遅れましたが、会報その他についてご感想･ご意見ください。

衆議院の異例解散･劇場型カモフラージュ選挙で、弱肉強食・平和破壊の政治傾向が懸念されます。